



# いんなみのりこの 小さな 声と共に

NPO法人芭蕉の散歩道「ふれあいパトロール隊」賛助会員・隊員  
安全協会大田原市部理事 // 大田原市議会民生常任委員会委員

## ごあいさつ

平成 30 年、はやくも2月が終わろうとしています。  
これまでの 2 年間の議員活動は脇目も振る事が出来ない  
くらい、全力で走り続けて来たように思います。  
自身の活動の仕方について反省点、改善点は多々ござい  
ますが、その志においては少しも迷いは無く、一片の曇りも  
ございません。

今後もこの 2 年間で学んだ事、経験できた事、教えて  
頂いた事を最大限に活かして、小さな声を市政で実現化  
する為に、誠の心で更に全力で働いて参ります。

まだまだ議員として未熟ないんなみのりことでございますが、  
みなさまの暖かいご支援ご指導を今後ともよろしくお願い致  
します。

### 【 3月定例会、一般質問事項 】

#### 1 交通安全施策について

- (1) 小中学生に対する交通安全教育の現状と課題につ  
いて
- (2) 自転車事故による被害者救済及び加害者の負担  
軽減のための施策について
- (3) 交通事故の無い安全で安心な大田原市を実現する  
ための施策について

#### 2 仕事、子育て両立支援事業について

- (1) 企業主導型保育事業の現状と本市と企業の連携に  
ついて

質問 1 では、近年自転車による交通事故が急増する中、  
事故を未然に防ぐ事、また起きてしまった時の対策について、  
市の方針を問います。

また、小中学生の交通安全教育を高めて、市民が一体と  
なり、コンプライアンス意識を高めて、思いやりと人に優しい  
運転を心がける大田原市にする為の施策を提言致します。

質問事項 2 では、働きながら子育てをする方が、安心して  
仕事と子育てが両立出来るような施策を提言し、また現  
在の待機児童解消及び将来増えるであろう待機児童を無  
くするための官民一体となって進める施策について、提言致し  
ます。

まだまだ寒さ厳しく、気温の変動も激しい日が続くと思いま  
すが、みなさま、どうぞお身体大切に、ご活躍されますように、  
ご祈念いたしております。

2018 年2月 18 日  
大田原市議会議員  
いんなみのりこ



## いんなみのりこ 活動記録 (2017年12月～2018年2月)

### 2017年12月

- 1日 こども食堂ボランティア参加
- 4日～14日  
平成29年第4回議会定例会  
(議案上程：正副議長選挙)
- 6日 本会議(議案質疑・一般質問)
- 7日 本会議 いんなみのりこ一般質問登壇
- 8日 本会議(一般質問)  
こども食堂ボランティア
- 11日 常任委員会(民生・総務)
- 12日 文教常任委員会  
ファシリテーション研究会
- 14日 本会議(議決)  
全員協議会  
いんなみのりこ所属会派「一誠会」  
津久井市長に、  
平成30年市政に関する建議要望書提出
- 15日 こども食堂ボランティア
- 16日 荒町子供囃子お楽しみ会
- 18日 芭蕉の散歩道ふれあいパトロール出動
- 19日 川西ほほえみセンター忘年会参加
- 22日 こども食堂ボランティア  
インターネットラジオ  
「夜ふかしノート」出演
- 23日 第45回芭蕉の里くろばねマラソン大会来賓
- 25日 大田原中学校 創立七十周年記念式典来賓

### 2018年1月

- 3日 大田原市成人式来賓
- 5日 平成30年北栃木新春名刺交換会来賓  
こども食堂ボランティア
- 12日 こども食堂ボランティア
- 13、14日  
第一回道の駅与一の郷新春お囃子演奏会参加
- 15日 全員協議会
- 16日 ファシリテーション研究会
- 21日 東地区公民館  
「初笑い初歌い、お囃子演奏会」参加  
「みんなの学校」上映会参加
- 24日 こども食堂会議
- 26日 こども食堂ボランティア  
インターネットラジオ  
「夜ふかしノート」出演
- 29日 芭蕉の散歩道ふれあいパトロール出動

### 2018年2月

- 9日 全員協議会  
議員研修会  
「地方議員に求められる役割・権限・議員活動」  
こども食堂ボランティア
- 13日 一般質問通告  
ファシリテーション研究会
- 14日 一般質問通告
- 15日 一般質問ヒアリング
- 16日 こども食堂ボランティア
- 18日 第9回 いんなみのりこ市政活動報告会
- 19日 臨時全員協議会  
新庁舎建設進捗状況視察
- 21日 2018年 みんなで語ろう、まちづくり!  
「那須野が原の未来を考える」参加
- 23日 こども食堂ボランティア  
インターネットラジオ  
「夜ふかしノート」出演
- 26日～3月13日  
平成30年第1回3月定例会
- 27日 芭蕉の散歩道ふれあいパトロール出動
- 28日 本会議(議案上程・代表者質問)

## お知らせ

2月26日～3月13日

### 大田原市議会平成30年第1回定例会

お時間のとれる方は是非傍聴にお越しく下さい。  
大田原市ウェブサイトにて、  
ネットで生中継、録画をご覧いただけます。



議会生中継のご案内URL:

<http://www.city.ohawara.tochigi.jp/gikai/docs/2015070900196/>



### 市の宝、清流那珂川の利活用について

大きな1番、市の宝、清流那珂川の利活用について。今、日本各地で、この先の人口減少社会を見据えて、移住定住促進や地域の魅力を生かしたさまざまな観光事業が行われていることは、皆様ご存じのとおりです。大田原市は、その豊かで恵まれた自然を生かし、昔から米づくりや野菜生産、酪農や肥育が盛んであり、豊かに湧き出る水と米で酒をつくる酒蔵が6つもあります。農から食まで、一貫した産業を有しているのが大きな魅力です。また、医療、福祉分野の発展も目覚ましく、国際医療福祉大学や国内有数の医療器メーカーなど、生産から学術研究まで整っています。

このような地域資源を生かして行われている大田原グリーン・ツーリズム事業は、首都圏を中心とした学校の学校教育旅行に選ばれ、今や大田原市の交流人口をふやす大きな原動力になっていると言えます。農家宿泊体験を通じて、産業体験や自然観察など、訪れる子供たちに変えられていて、訪れた子供たちから、また絶対遊びに来るからね、今度は家族と一緒に来るからねなどと言ってもらえて、受け入れ農家さんもやってよかった、誇らしいと目を細めて話してくれていました。そんな受け入れ農家さんの何件かから、訪れた子供たちに自然観察を体験させるために、那珂川に行くということをお聞きました。清流那珂川と言えば、アユの漁獲量日本一を誇る本市の宝とも言える地域資源です。毎年6月の解禁を迎えると、日本全国から多くの釣り人が訪れてきてくれ、また大手釣り具メーカーの全国大会なども盛んに開催されています。

農家さんのお話に戻りますが、那珂川の魅力をお子たちに体験してもらいたくて川に連れていくのだけれども、川のごとはよくわからなくて、遊びといても河原の石を拾って水切り遊びぐらいしかさせてあげられないのよね、もっと那珂川でいろいろな体験をさせてあげられるといいのだけれども。あと、川には危険もあるしねと気になることを言われました。確かにグリーン・ツーリズム事業の中に川での自然体験プログラムを今よりも充実させることができれば、農家民泊はもっと魅力的になるのではないのでしょうか。

また、新たに那珂川釣りリズム事業、釣りという漢字を使って釣りリズムができれば、さらなる大田原市の魅力アップにつながるのではないかと考えました。ただし、実現するにはクリアしなければならない課題もたくさんあります。

課題解決のためには、川での安全な遊びを知っていて、川の魅力にも精通している市内の方々に協力してもらい、川のガイドや川遊びのインストラクターになってもらうのはどうか

と考えました。そのことを、昔から釣りが好きで、川に関する活動にも数多く参加している市内のおじいちゃんに話したところ、喜んで協力するよ、わしらの子供のころはズーコン釣りと言ってな、1メートルぐらいのシノダケと釣り糸と針で簡単な釣りざおをつくって雑魚なんか釣って遊んだのだよ、楽しいぞ、今でも子供たちにそんなことをさせてあげられたら喜ぶのではないかなと話してくれました。なるほど、そんなプログラムをつくり、子供たちに体験させてあげたらきっと大喜びすると私も思いました。

また、川で釣りをするには入漁券を買わなければならないのですが、中学生までは無料で釣りができるというので、費用もかからないというのはありがたい好条件です。そして、これはツーリズムで訪れる子供たちに限らず、本市の子供たちにも川で楽しみを体験し、市の宝、清流那珂川、ふるさとの川にもっと親しんでもらうことにもつながるのではないかと考えています。

そこで、質問します。(1)、大田原グリーン・ツーリズム事業と連携し、新たに大田原、または那珂川釣りリズム事業を起こし、那珂川を利活用することが本市の魅力アップにつながるかと考えるが、市の考えをお伺いいたします。

先ごろ新聞報道で、栃木県に愛着を感じている県民がどのくらいいるかという調査結果が掲載されていました。その結果、80%近い県民が本県に愛着を感じているということです。理由は幾つか挙げられていて、自然環境などの風土や、また食べ物が合っているという理由は、たしか2番目ぐらいに挙げられていたかと記憶しています。このように子供のころから親しんできた味には、郷土愛を醸成するための大きな力があると思います。市内の子供たちに、本市の農産物や川魚料理を日ごろから提供し、食べ親しんでもらうことは、自然な形で子供たちの郷土愛を醸成し、郷土に誇りを持つことにとってもいい影響を与えるのではないかと考えております。

その取り組みの一つとして、全国各地でご当地食材や特産品を学校給食で提供している自治体も少なくはありません。本市も市の農産物などを取り入れて、安心で安全でおいしい給食の提供にご努力されていて、また何といてもその給食が無料というのは、子育て環境日本一を目指すという目標の具現化の象徴であると感じています。

そこで、さらにそれを一歩進めるということで、学校給食の食材に川魚を加えてはどうでしょうか。本市特産のさまざまな農畜産物と、特に川魚の中にも漁獲量日本一の那珂川のアユを給食で提供し、日ごろからその味に親しむことに

よって、食を通して自然な形で郷土愛醸成に寄与できるのではないのでしょうか。

また、農林水産省も食育基本計画において、望ましい食生活や生産等に対する子供たちの関心と理解を深めるとともに、地産地消を進めていくために生産団体と連携し、学校給食における地場産物の活用の推進や、生産者や生産に関する情報を子供に伝達する取り組みを促進すると言っております。さらに、食育計画の中では、学校給食で地場産物の利用を進めるためには、学校栄養士の努力に依存しているだけでは限界があり、学校、学校給食関係者と生産者や生産団体等での推進体制をつくるほか、自治体として学校給食での地場産物の利用の方針を明確化することが有効とも言っております。要するに、官民協働で推進することが望ましいと言っているわけです。ですので、大田原ツーリズム事業と那珂川釣リズムの連携や、学校給食での地場食材、アユの提供を戦略的に進める上で、協力推進体制をつくることはとても重要ではないでしょうか。

今回この質問を行うに当たり、私は多くの方のご意見を伺いました。その多くの方が口にしていた言葉で、私の心に強く響いた言葉がございます。那珂川を何とかすっぺ、那珂川何とかしなくちゃあねえ。私は、本市の宝、清流那珂川を愛する人たちの思いが、この言葉に集約されていると思います。そこで、もしも推進体制をつくることのできるならば、この方々の思いをそのまま団体名にしたいと思われた名称が、那珂川を何とかすっぺ協議会です。

そこで、(2)、郷土愛を醸成するために川魚料理を活用することは有効かつ必要と考えるが、市の考えを伺います。

(3)、1、2を推進していく上で新たな連携体制や、今ある連携体制の強化が必要であると考えますが、市の考えを伺います。よろしく願います。

#### ◆ 津久井富雄 市長 ◆

質問事項1、市の宝、清流那珂川の利活用についてのうち(1)、新たにおおたわら釣リズム事業を起こしてはとご質問にお答えいたします。大田原市内を流れる関東随一の清流として知られる那珂川は、全国屈指のアユの漁獲量を誇り、初夏に黒羽観光やなが設置されますと多くの観光客でにぎわい、また大勢の釣り客が訪れアユ釣りを楽しまれており、ダイワ鮎マスターズやシマノジャパンカップといった大手釣り具メーカーによります全国規模のアユ釣り大会が毎年この那珂川で開催され、大勢の競技者が釣果を競い合い、見物客を盛り上げております。

大田原市観光協会でも、独自にアユ釣り大会を開催しており、今年度は来年春の栃木DCに向けた特別企画といたしまして、女性限定のアユ釣り体験鮎レディを実施いたしました。道具も全て無料レンタルで、ガイドが横でサポートするといった、女性が気軽にアユ釣りを体験できる企画で、

今年度は17名の参加をいただき、例年よりも華やかな盛り上がりを見せたところでございます。

また、那珂川の流れる黒羽地区には、アユを取り扱った店舗が多くあり、那珂川の清流でとれたアユの塩焼きはもちろんのこと、甘露煮や創作料理等が販売され、市内外を問わずアユを目当てに多くの方が訪れております。大田原市の推進するグリーン・ツーリズム事業においても、那珂川を活用した体験メニューは大変有効な観光PRになると考えておりますので、参加者の意向を確認しながら体験メニューの開発等、那珂川という素晴らしい資源の利活用を図り、本市の魅力アップにつなげてまいりたいと考えております。

(2)の川魚料理を活用してはとご質問につきましては、担当部長よりご答弁を申し上げます。

(3)の那珂川の利活用を推進していくための新たな連携体制や、今ある連携体制の強化が必要であると考えがとご質問にお答えいたします。那珂川という素晴らしい地域資源に対する誇りの醸成には、関係者の理解と、そして連携が必要不可欠であります。那珂川北部漁業組合や黒羽商工会、大田原市観光協会、株式会社大田原ツーリズム等、関連する団体と連携を密にしながら、那珂川流域の魅力ある資源を有効に活用してまいります。

また、栃木県が所管する食の回廊の一つであります那珂川あゆ街道において、県、那須町、那珂川町、那須烏山市、茂木町等も連携して那珂川の魅力をもPRしておりますので、今後とも積極的に事業展開を図ってまいります。

ここで重要なのは、やはりこれらを情熱を持って那珂川を活性化させていこうと、活用していこうという人材をいかに養成できるか、これにかかってくるのかなというふうに思っているところなので、今後ともご指導いただきたいと思います。

#### ◆ 益子正幸 教育部長 ◆

アユを学校給食に活用してというご質問でしたので、私から(2)についてお答えを申し上げます。

本市学校給食におきましては、大田原市産の食材を使用して郷土への愛着を深めることを目的とした与一くんランチを実施しております。郷土那珂川を代表する川魚のアユを使用した給食の提供につきましては、価格が高価であり、年間を通して安定的な供給が困難であること、また各学校の調理設備では、焼いたりフライにするための下処理等に時間を要することから、現時点での使用は考えておりません。以上です。

#### ◇ 印南典子 議員 ◇

まずは、市長のご答弁ですけれども、積極的に那珂川の利活用、特に人材養成に力を入れて進めていくということ、大変期待しております。

その中で、やはり那珂川のガイドができる人であるとか、それから遊びのインストラクターができる人を養成することなども含めて、重ねてお願いしたいと思います。

また、そういったことの中で再質問になりますが、市内のほほえみセンターには釣りクラブをやっているところがあります。その高齢者が、そういったことに喜んで協力したいと言ってくれています。ほほえみセンターに限らず、市内には川に精通している高齢者がたくさんいらっしゃると思います。この方たちに那珂川の利活用に協力してもらうことで、高齢者と子供たちの触れ合いを深めることにつながり、子供たちには高齢者に対する敬いの心が醸成され、おじいちゃん、おばあちゃんに一層親しみが湧き、高齢者は誇りや生きがいを持つことにつながるとは思います、市のお考えを伺います。

◆ 佐藤芳昭 産業振興部長 ◆

再質問にお答えしたいと思います。

まず、現在のグリーン・ツーリズムの状況ですが、議員もご存じのこととは思いますが、農業体験を中心として、いわゆる林間学校とか修学旅行的な教育旅行という形で受け入れをしているわけでございます。

受け入れ農家につきましては、プラスアルファの部分につきましては、グリーン・ツーリズム推進協議会などと協力しながらいろいろな取り組みはしているわけでございますが、基本的な部分につきましては、農家の普段の生活の中に生徒を受け入れるという形でございます。それによって継続的に、農家であればどなたでも受け入れが可能な、そういう形態になっているわけでございます。しかしながら、釣りといいますか、漁業につきましては、趣味とかスポーツというような形態が大半でございまして、なりわいとしている方は余りいないというのが現状でございます。

また、受け入れメニューとしてまとまった人数で体験させるといことになりまして、安全対策も含めまして、かなりの経費もかけて特別な準備をしなければならぬと。それから、学校側としましても、やはり議員おっしゃいましたように安全対策ということで、余り望んでいないというのが現実でございます。ただし、先ほど市長がご答弁申し上げましたように、大変有効なPRになりますし、地域の活性化にもつながりますので、今後参加者の意向を聞きながら、あるいは株式会社大田原ツーリズムとしましても、今後個人旅行も取り組んでいきたいという意向がありますので、そういう中でほほえみセンターのお年寄りとか、あるいは地域の魚釣りをよく知っている方とか、こういう方にも協力をいただいて、人材の開発、これも含めまして、その中で取り組んでいきたいというふうには考えております。以上でございます。

◇ 印南典子 議員 ◇

なかなか学校旅行では取り入れるのは難しいということはおわかりました。

それでしたら、ぜひとも個人の旅行などで釣りを楽しんでくれる方がふえるような、そういった協力体制を早期に構築して、那珂川の魅力をお伝えしていただけるとありがたいと思っております。

再質問の2番です。釣りを通して婚活イベント、釣り婚などを開催している地域もあり、なかなか好調のようですが、本市でも釣りを通しての出会いの場、釣り婚を開催してはどうかと思いますが、市の考えをお伺いいたします。

◆ 佐藤英夫 総合政策部長 ◆

ただいまの再質問にお答えします。

議員ご存じのように、これまでも数年かけて取り組んでまいりましたけれども、今年度は八溝山周辺地域定住自立圏の取り組みということで、現にやっております。その成果も確認しながら、同様の事業をまた来年度も定住自立圏の事業として計画しておりますので、今ご提案いただきましたので、来年度の事業内容を検討する中で、一つの参考のご意見として伺ってまいりたいと思います。

◇ 印南典子 議員 ◇

ぜひともよろしくお伺いいたします。釣りを通しての出会いの場というのは、とてもすてきなことだと私も思っておりますので、よろしくお伺いいたします。

次の質問です。来年4月からDCキャンペーンが始まります。私が鉄道の旅で一番楽しみにしているのが駅弁です。全国各地のご当地食材が手軽に楽しめて、電車の旅を一層楽しいものにしてくれるのが駅弁だと思います。本市がこの駅弁を地場食材をメインに開発し、販売できれば、DCキャンペーンを盛り上げることに効果的ではないでしょうか。地場産の農畜産物や那珂川のアユを使った駅弁、市内の料理店などと共同で開発した大田原の郷土の味ふるさと弁当は、きっと訪れる方々に喜ばれることと思います。

また、大田原市の花である菊は、産業文化祭などで展示している子供たちが丹精込めた作品を鑑賞するのとても楽しみです。食用もでございます。酢の物としていただいても色鮮やかで、おいしいものです。アユを切り身にし、唐揚げにして菊の酢の物と和えたりしたら、きっと爽やかでおいしいおかずになると思います。官民共同で開発したお弁当はいかがでしょうか、この点について市のお考えをお伺いいたします。

◆ 佐藤芳昭 産業振興部長 ◆

お答えいたします。

官民共同でアユ、あるいは菊を使ったお弁当をつくったらどうかというご提案かとは思いますが、先ほど市長がご答弁しましたように、市内で創作料理をつくっているようなお店もございまして、アユを取り扱っている店というのはたくさんございます。

皆さんそれぞれに、取り組みはいろんな取り組みをされておられまして、お弁当まではなかなかいかないのですけれども、アユというのは、アユの香りを残しながら食材として使うのが非常に難しいということを知っておりまして、焼きそばにしたりおせんべいにしたり、あといろんなアユ御膳というような形で、創作料理で出しているお店もございます。そういう取り組みが進んでおりますし、それから先ほどやはりご答弁した中に、那珂川あゆ街道というものがございます。これは、県と沿線5市町で、行政含めて61団体ぐらいだと思いましたが、民間の方も当然含まれているという団体でございますが、その中でも創作料理なども取り組む機会もございますので、そういう中で提案をして、なかなか難しいということは聞いておりますけれども、やはりその難しいところを乗り越えて、那珂川のアユ、これを全国にPRしていきたいと。ちょうどDCということでございますので、議員のご提案を参

考にさせていただいて、今後検討させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

◇ 印南典子 議員 ◇

DCキャンペーンで、大田原市のふるさと弁当なんかを食べられる姿を夢に思い浮かべながら、質問させていただきました。また、3月にヤマメやイワナなどを放流するのは、そういう時期に釣りに来ていただいて、川に人がたくさん集まって、カワウの被害を減少させる目的もあるというようなことも伺いました。ですので、川に人がたくさん集まるようなことを事業とすれば、カワウの被害も減少するのではないかとこのように考えております。とても自然に優しい形で減少できるのではないかなというふうに考えております。那珂川を愛する市民の思いとともに、本市が那珂川の利活用を推進することで、さらに大田原市の魅力が輝きを増すことを願って、次の質問に移ります。

## 大田原市立中学校柔道事故調査報告について

◇ 印南典子 議員 ◇

大きな質問の2番、大田原市立中学校柔道事故調査報告について。昨年8月7日に、大田原市立中学校で柔道部活動中、当時1年生の男子生徒が当時3年生の男子生徒と投げ込み練習を行っていた際に、大外刈りにより後頭部を打ち一時意識不明の重体に陥った事故の報告書が、事故から1年1カ月を要して提出されました。

この報告書に書かれている調査結果は、私たち子供を養育する親や、そして誰よりも学校教育の現場を預かる先生方に大きな教訓を示唆する大変重要な報告書だと痛感して、なお余りあるものがあると思います。また、報告書の内容は、事故後1カ月くらいの間に私が知り得ていた事実と大きな違いはなく、その意味において調査委員の方が丁寧に事実を調査されたことに深い感謝の意を感じております。

私が今回この質問をさせていただく最大の理由は、事故の際に指導、監督の責任があった学校関係者に、この報告書に書かれている事実や提言を真摯に受けとめ、二度とこのような痛ましい事故を起こさないための再発防止のための努力を、ほかの部活動のいかなる目的よりも最優先に実行していただきたい、その思いだけでございます。また、この後担当課からご答弁がいただけると思いますが、できればその後で本市の行政を預かる最高責任者である津久井市長のご答弁もお願いしたいと思います。

それでは、(1)、調査報告書の概要と今後の再発防止に向けての具体的な対策について、市の考えを伺います。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

質問事項の2、大田原市立中学校柔道事故調査報告書について、(1)、調査報告書の概要と今後の再発防止に向けての具体的な対策についてのご質問にお答えいたします。

ご質問の大田原市立中学校柔道事故調査報告書は、平成29年9月18日に公表し、ホームページに掲載いたしました。また、その概要につきましては9月の全員協議会にてご報告させていただいたとおりでございます。

本市といたしましては、大きく4つの具体策を講じて対応してまいります。1つ目は、中学生で初めて柔道を経験する初心者には、5月から8月の大外刈りを受ける練習を禁止すること。2つ目は、初心者の1年生の大会出場は、9月に行われる那須地区新人大会からとすること。3つ目は、柔道専門家を派遣し、わざや受け身等の習熟度を確認したり、練習環境の確認を行ったりすること。4つ目は、初心者に対して練習時のヘッドギアの装着を義務づけることなどです。

今年度の対応として、10月に柔道部顧問を対象に受け身の講習会を開催いたしましたことは、新聞報道のとおりであります。また、12月中には柔道専門家による練習の視察、各中学校の武道場の環境の確認を予定しております。来年度からは、中学生の初心者を対象に、柔道専門家による受け身の習熟度を確認する機会を新たに設け、再発の防止に取り組んでまいります。以上でございます。

◇ 印南典子 議員 ◇

ご答弁ありがとうございます。

今大田原市では、4つの大きな再発防止策を講じているというご説明を受けました。市が本気でこの事故の再発防止に取り組んでいるという姿勢が、大変よゆうかがわれます。また、こちらの報告書にある再発防止に関する提言というのをよく踏襲して、再発防止策を講じていらっしゃるということも大変大事なことだと、いい取り組みだなというふうに感じております。

そこで再質問ですが、再発防止に向けてこのような取り組み、大変重要だと思います。ですが、このような重傷事故がまた絶対に起きないということは、これは誰にも言えないことだと思います。このような重傷事故がまた起きた場合には、第三者による調査委員会が非常に重要であるということは、この報告書を見れば一目瞭然であると思います。そして、このような事故や、また深刻ないじめの問題などが起きたときに、早期に対応、解決するために常設の調査委員会を設置し、速やかに調査を開始できる体制づくりが必要不可欠だと思いますが、市の考えをお伺いいたします。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

お答えいたします。今回の重要事故以外の分野における第三者委員会の設置につきましては、内容によって選出すべき委員の専門性が異なることから、その都度委員会の委員選出の会議を開き、適任者に委嘱する形をとるつもりであります。

なお、既にご存じのことと思いますけれども、本市においてはいじめ防止対策推進法に基づき、大田原市いじめ問題推進委員会を平成 27 年度に立ち上げております。以上でございます。

◇ 印南典子 議員 ◇

私が再質問したのは、防止ということではなくて、こういった事故が起きたときの対応という調査委員会ということなのです。もちろん教育長がおっしゃるとおり人選などは、その都度その事案に応じた方を選ぶことが重要だと思いますけれども、常設の調査委員会という箱をつくっておけば、速やかにそれを立ち上げることは可能だと思います。その設置から始めるのでは、やはり今回のように事故後1カ月ぐらいの時間がかかってしまいますので、その中の人選はその事案ごとに人選するとして、まずは常設の委員会という入れ物をつくっておくのはいかがかと思いますが、ご答弁よろしくお伺いいたします。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

先ほど答弁しましたように、その都度その都度その事故の内容というのは異なってまいりますので、最初からその委員を決めると、それは不可能だと思いますので、枠をつくるとしてもどういった枠を、第三者委員会という枠、名称だけだったらそれはできますけれども、その都度選考すると遅くなると言

いますけれども、今回の柔道事故であっても、医者その他もろもろ、物すごい労力を費やして選定したわけでありまして、1週間や2週間で到底そういう委員の先生方を集めるということは不可能でありますので、1カ月や2カ月かかるのは、これはやむを得ないと、よくそういったところのご事情を勘案していただければありがたいと。以上でございます。

◇ 印南典子 議員 ◇

それでは、別の質問をさせていただきます。報告書にある再発防止の提言を確実に実行していくためには、ここでも第三者によるチェックが重要だと考えております。どんなに優秀な人でも間違いを起してしまうことは、この事故が起きてしまったという事実が如実にそれを示していると思います。二度とこのような事故を起こさないために、再発防止策が適切に行われているかをチェックする再発防止検討委員会の設置を求めたいと思います。市の考えをお伺いいたします。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

検討委員会というのかわかりませんが、柔道の専門家をそれぞれ各学校の部活動、柔道部のあるところに年に何回かに分けて、3回程度ではないですかね、そこにおいて先ほど答弁申し上げましたとおり練習の視察、あるいは各中学校武道館の環境の確認、それから柔道の受け身の習熟度の確認と、こういったところが検討委員会に匹敵するものではないのかなと、そのように思っております。

◇ 印南典子 議員 ◇

教育長がおっしゃられたような、そういった方々が検討委員会に匹敵するような働きをしていただけるどうか、私も今後少し見させていただきたいと思っております。

報告書の再発防止に関する提言のところに、軽度な負傷例であっても起きるたびに原因を検証し、防止策を立てるなどして地道にデータを積み上げていくことが、大事故の発生を予防するというふうにあります。報告書25ページです。そのためには、ヒヤリハットの共有が重要と考えています。小さな事例も原因を検証し、情報共有する必要があると思います。そのために、ヒヤリハット集が有効的かつ必要ではないかというふうに考えております。ヒヤリハット集についての市の考えをお伺いいたします。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

ちょっとお話の真意はあれなのですが、ヒヤリハット集という、その一つの冊子みたいなものですか。（「そうですね、事例……」と言う人あり）今質問した、それをちょっと教えていただければありがたいと思っております。

◇ 印南典子 議員 ◇

そうです。共有するためには文書にして、この前新聞にも

出ていましたけれども、県もこういったことが有効であるというふうな新聞記事もございました。ですので、いろいろ各学校で小さなつまづきであるとか、そういったヒヤリハットの事例を検証し、大きな事故につながらないような対策を立てるためのヒヤリハット集が有効ではないかというふうな質問です。

◆ 植竹福二 教育長 ◆

昨日の教育会議の宇田県教育長の中に、そういうヒヤリハット集をつくってというふうな文言が出ておりましたけれども、県のほうでそういうものを検討するということですので、本市においてもそのほうでは検討していきたいと思っております。

◇ 印南典子 議員 ◇

事故はいつ起こるはわからないので、ぜひとも早急なヒヤリハット集の作成をお願いしたいと思います。

ここで、冒頭にもお願いいたしました、市長から今回のこのことについてのご答弁をお願いいたします。

◆ 津久井富雄 市長 ◆

ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

現場を預かる教育委員会、また学校の課題ということで、教育長が主にお答えしていただいたわけですが、市といたしましても今回のような事故が二度と起きてはならない、

そのようにも考えておりますし、それに対する予防措置等については教育委員会等でもよく相談をし、事後策等についても真摯に考えて対応しているところでございます。

印南議員からご指摘、またご提案をいただいた点につきまして、極力取り入れられるものは取り入れていきたいと思っておりますが、ただ屋上屋を重ねるといような形になってしまっは意味をなさない部分もございますので、現体制の中でやれるべきものはたくさんあると思います。問題は、やはりヒヤリハットのようにちょっとした油断の中から起きてしまう、そういった気構えという部分で、いかに常日ごろから気をつけていかなければならないか、発信をしていく必要があると思っております。お子さんをお預かりしている現場といたしましては、いつでも事故は起きるのだというような考え方で今後とも対処していきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

◇ 印南典子 議員 ◇

市長、ご答弁ありがとうございました。市長もヒヤリハットなどの集積が大変事故防止には有効だというお考えで、私もほっとしております。生徒や親が安心して部活動を行え、子供たちの人間形成に役立ち、学校部活動を通して子供たちの豊かな心と体が育つように心から願い、最後の質問に移ります。

## 認知症への理解を深める活動について

◇ 印南典子 議員 ◇

3、認知症への理解を深める活動について。認知症による徘徊などを理由に、全国で行方不明になった人の数は、1年間におよそ1万2,000人以上に上ります。そのうち、死亡したり行方不明のままだったりする人は、合わせておよそ550人を超えていると言われております。厚労省の調べでは、75歳以上で5人に1人が、85歳以上では4人に1人が、その症状があるものと言われております。また、この数は高齢者の増加に伴いふえ続けていく、今後20年で倍増するという予測も立てられております。もちろん本市も例外ではないと思っております。

行方不明になってしまうと、家族だけで探すのはとても困難で、そのため全国では多くの自治体が行政機関を中心に、警察や関係機関、地域住民の協力を得て、高齢者のための捜索訓練が実施されたり、ネットワーク化を図る取り組みが進められております。本市が高齢者が住みなれた地域で自分らしく暮らし続ける社会を実現するために、たとえ認知症になっても安心して暮らしていける地域であることも重要だと思います。その取り組みの一つとして、徘徊高齢者への声かけを行い、早期に発見につなげることは大変効果的ではないでしょうか。ただ、声かけといってもいきなりで

きるものではないので、まずは練習を行い、声をかけられた高齢者を驚かささないなどの配慮が必要だと思います。

それを踏まえて、(1)、認知症による行方不明者の素早く安全な保護につなげるために、本市全体で声かけ訓練を実施し、声かけ運動を行うことは有効かつ必要と考えるが、市の考えをお伺いいたします。

◆ 岩井芳朗 保健福祉部長 ◆

質問事項の3、認知症への理解を深める活動について、(1)、行方不明者の安全な確保につなげるため、市全体で声かけ訓練を実施し、声かけ運動を行うことは有効かつ必要と考えるが、市の考えをとのご質問にお答えいたします。

高齢社会の進展により、認知症高齢者が増加し、行方不明になる認知症高齢者が1万人を超えているという報道がされております。本市では、26年度に初めて見守り隊の活動として多くの関係者にご協力をいただきまして、佐久山地区で徘徊高齢者捜索模擬訓練を実施いたしました。平成27年度には、紫塚、西部、東部地区が合同で実施しております。市内全地区の見守り隊に参加を呼びかけ、各地区の代表者が参加しております。これを受けま



して、平成 28 年度は川西地区、平成 29 年度におきましては親園地区で実施しております。今後も各地区ごとに訓練を実施するよう呼びかけをし、市全域に広げてまいりたいと考えております。

また、認知症サポーター養成講座を積極的に開催し、平成 29 年 10 月末で総計 9,847 人が受講しております。認知症高齢者に対する声かけの仕方も具体的にお示しておりますので、徘徊高齢者を発見したとご連絡をいただくケースも出てきており、認知症サポーター養成講座の成果と声かけ訓練の成果があらわれていると考えております。以上でございます。

#### ◇ 印南典子 議員 ◇

既に多くの取り組みがなされているということがわかりました。これからもそのような取り組みを継続して、大田原市全体に広めていってくれたら大変ありがたいと思います。

また、今認知症マスター講座のお話が出ましたけれども、先進事例ではこの認知症マスター講座を受けた修了者に協力者として登録していただき、そのような市内で徘徊している人などを発見した場合には、連絡体制、連携というか、ネットワークづくりなどをやっているところもあると聞きます。その点について本市の考えを伺います。

#### ◆ 岩井芳朗 保健福祉部長 ◆

ただいまの再質問にお答えいたします。今議員がおっしゃったことは若干違つかもしれないのですが、ネットワークづくりというふうなことで、今市といたしましては、これはまだ仮称なのですが、徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事業というふうなことで、簡単に申し上げますと、例えば家族、あるいは本人等で認知症によるそういう病気が疑われるというふうな方が、顔写真、あるいは本人の状況等、そういったものを事前登録をしていただきまして、もちろん本人とか家族の了解をとるわけですが、登録をしていただいた方につきましては市、警察、あるいは見守り隊、そういった関係するところで情報共有をしていただくというふうを考えております。

万が一その登録者の中で、行方不明であるとか徘徊をされたというふうな場合におきましては、もちろんご家族の同意をとってということですが、顔写真等も含めまして検索をお願いします。それにつきましては、例えばよいメール等で流すとか、いろんな形をとりまして周知をして検索をしていけるような、万が一そういうふうなことになったときに、すぐにその情報を提供できる、そういう仕組みをつくっていくということで、今現在ちょっと高齢者幸福課の中で検討をしているところでございます。詳細につきましては、これからもう少し具体的に決めていくというふうなことでございますけれども、そういったネットワークづくりで、万が一徘徊等をされている方が出たときに早目に見つけ出せる対策というか、そういったもの

も構築しているところでございます。

あわせて、探すというよりも、認知症で徘徊をしないような、そういった予防のほうにも力を入れておりますので、あわせて予防のほうと、万が一そういったことが起きてしまったときの対応ということで、両面で今ちょっと具体的に検討しているところでございますので、もうしばらくお待ちいただくと、仮称ですけれども、そのネットワーク事業の部分の部分を皆さんのところに周知をして、登録をしていただけるような体制を整えたいというふうを考えております。以上でございます。

#### ◇ 印南典子 議員 ◇

今の部長からのご答弁で、私もそのネットワークづくりは非常に重要だというふうに、この質問をするときに考えておりました。

認知症マスター講座を受けられた方も 9,847 人ですか、これぐらいの認知症に理解がある人が大田原市にはいらっしゃるということなので、ぜひともそのネットワークの中にこのような方を組み込んでいただいて、早期に大きなネットを本市に張って、高齢者の安全な暮らしを支えていただきたいというふうに思います。

今回の3つの質問は、今大田原市に暮らす赤ちゃんから高齢者までの全ての人たちが幸福感を実感し、自分らしく生き生きと暮らしていけること、そして 100 年先のこの大田原市に暮らす人たちが、子供たちが幸せな暮らしが続けられるように願いを込めて行いました。

これで私の質問の全てを終わります。ありがとうございました。

### ちょっと寄り道 digression



働くお母さんの  
参考に、  
IH クッキング

おすすめ  
の  
一冊



# 活動記録・アルバム

議題区分	一般質問	質問方式	一問一答方式
質問順位	7	議席番号	2
質問者	田嶋 典子		
質問事項	質問趣旨(質問の具体的な内容)		
1 市の定、議員報酬等の制 適用について	(1) 大田原グリーンツーリズム事業と連携し、新たに「おたわら舟ーリズム」事業を創出して、郡内川を利活用することが、本市の観光アップにつながると思えるが市の考えを伺いたい (2) 観光業を醸成するために川魚料理を利活用することは有効かつ必要と思えるが市の考えを伺いたい (3) (1)、(2)を推進していくために新たな連携体制や、今ある連携体制の強化が必要であると思えるが市の考えを伺いたい		
2 大田原市立中学校兼道 事務報告書について	(1) 報告書概要と今後の再見直しに向けての具体的な対策について市の考えを伺いたい		

12月定例会、一般質問通告書



伊豆へ観光行政の現場視察と親睦旅行



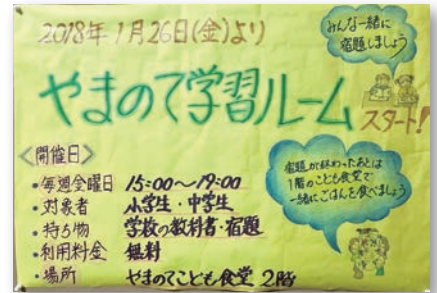
みんなの学校、上映会



「やまの手こども食堂」一周年を迎えました!



やまの手学習ルーム新聞掲載



学習支援で子ども達の居場所がまた一つ増えました



「ほほえみセンター事務局」の忘年会



新春お囃子演奏会



大田原市成人式



芭蕉の里くろばねマラソン大会



母校、大田原中学校創立七十周年記念



2018年2月18日 発行



## いんなみのりこと共に歩む会

いんなみのりこと共に歩む会会長 二見令子  
事務所：大田原市町島200-39  
TEL：080-5697-8581  
<http://innami-noriko.info/>

